Defi-Link VSD X

Defi-Link VSD X取扱説明書

'07.01-1

■取り付け方法・ご使用方法には、
【Defi-Link VSD Xを単体で使用する場合の項目(単体)】、
【Defi-Linkシステムに接続して使用する場合の項目(リンク接続)】、
【リンクさせない場合もさせる場合も読んでいただく必要のある項目(共通)】
の3種類の項目があります。お客様のご使用になる状態に合わせて必要な項目をお読みください。

【Defi-Link VSD Xを単体で使用する場合の項目(単体)】

単体 ◀◀◀

【Defi-Linkシステムに接続して使用する場合の項目(リンク接続)】

▶▶▶ リンク接続

【リンクさせない場合もさせる場合も読んでいただく必要のある項目(共通)】

単体 ◀◀◀ 共通 ▶▶▶ リンク接続

■Defi-Link Control Unit IIの表記がある場合は、その部分に特別な注意事項が記載されていない限り、Defi-Link Control Unit II(DF05001)とDefi-Link Control Unit II Version 2.0(DF05002)のどちらを使用する場合にもあてはまります。

取り付け方法(取り付け業者様へ)

単体 ◀◀◀ 共通 ▶▶▶ リンク接続

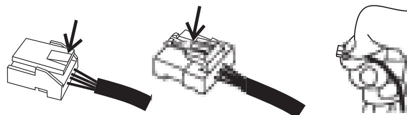
⚠ 警告

●取り付け・取り扱いについては、「取り付け作業をする前に」、「取り扱いに関して」をよくお読みいただき、安全に正しくお取り付けください。誤った取り付け箇所、取り付け方法は、脱落や車両破損の原因となり大変危険です。

⚠ 注意

●取り付け・取り扱いについては、Defi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)の取扱説明書も併せてご覧ください。また、電源・信号の配線については同梱の車種別接続ガイドやWebサイトの車種別接続ガイドを併せてご覧ください。

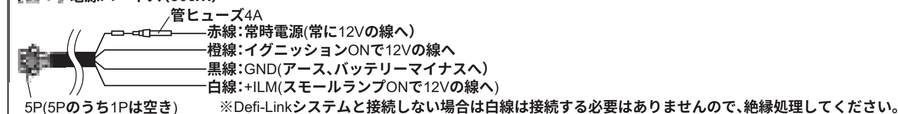
●無理にコネクターを引っ張ると、断線したりコネクターが破損する恐れがあります。コネクターを抜く際は、ロックを確実に押しながら抜いてください。また、コネクターによってロックの位置が異なりますので、ご注意ください。



ステップ1　電源・信号・LINKの配線

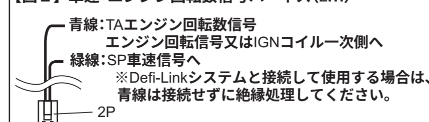
単体 ◀◀◀ 共通 ▶▶▶ リンク接続

【図1】電源ハーネス(80cm)

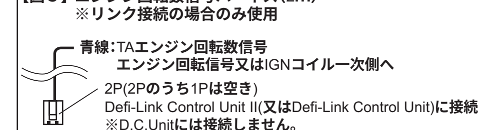


※Defi-Linkシステムと接続しない場合は白線は接続する必要はありませんので、絶縁処理してください。

【図2】車速・エンジン回転数信号ハーネス(2m)

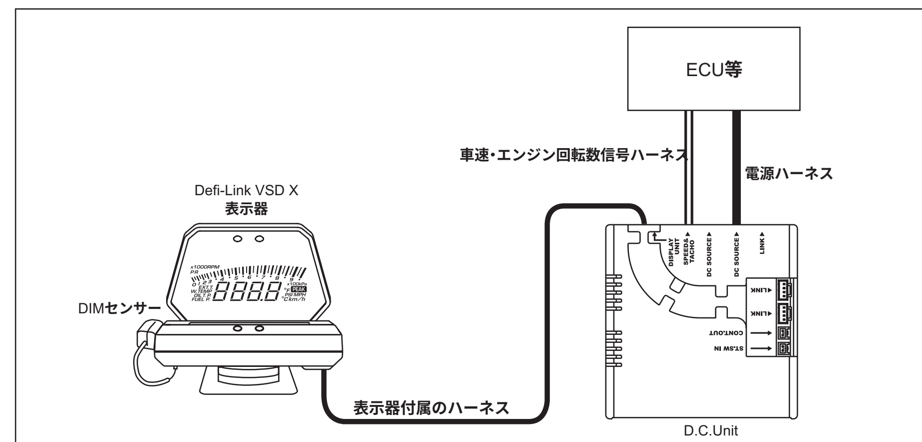


【図3】エンジン回転数信号ハーネス(2m)
※リンク接続の場合のみ使用



単体 ◀◀◀

【Defi-Link VSD X構成図（単体で使用する場合）】



1）付属の電源ハーネスを車両に接続します【図1】。

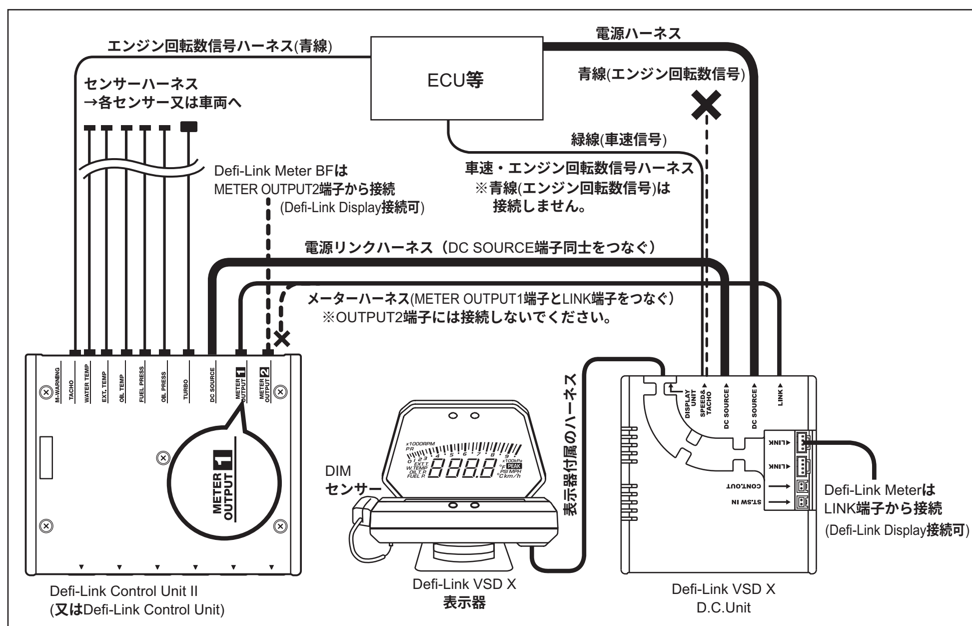
2）1で接続された電源ハーネスをD.C.UnitのDC SOURCE端子に接続します。
※DC SOURCE端子は2箇所ありますが、どちらに接続しても構いません。

3）付属の車速・エンジン回転数信号ハーネス(緑線・青線2m）をそれぞれエンジンコンピューター（ECU)の車速信号線、エンジン回転数信号線に付属のエレクトロタップを使用し接続します【図2】。

4）3で接続された車速・エンジン回転数信号ハーネスをD.C.UnitのSPEED&TACHO端子に接続します。
※Defi-Link VSD XはILM入力に関係なく同じ動作をしますが、後からDefi-Linkシステムと接続してご使用される場合は、Defi-LinkシステムへのILM供給のため、電源ハーネスの白線をスモールランプONで12Vの線に接続してください。また、エンジン回転数信号ハーネスをDefi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)に接続してください【図3】。

【Defi-Link VSD XとDefi-Linkシステム構成図（リンク接続する場合）】

※既にDefi-Linkシステムを使用し、電源が配線されていることが前提です。Defi-Linkシステムと同時に取り付ける場合は、まずDefi-Link Control Unit IIの取扱説明書を参考にDefi-Link Control Unit IIを取り付け、その後Defi-Link VSD Xを取り付けてください。



1）Defi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)から電源ハーネスを一旦外します。

2）外した電源ハーネスをDefi-Link VSD XのD.C.UnitのDC SOURCE端子に接続します。
※D.C.UnitのDC SOURCE端子は２箇所ありますが、どちらに接続しても構いません。

3）付属の電源リンクハーネスで、Defi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)とD.C.UnitのDC SOURCE端子を接続します。

4）Defi-Link Control Unit IIのMETER OUTPUT１端子(又はDefi-Link Control UnitのMETER端子)にメーターハーネスを接続している場合は、メーターハーネスを一旦外します。(Defi-Link Control Unit IIのMETER OUTPUT２端子のみを使用している場合は６へ進んでください。)

5）外したメーターハーネスをD.C. UnitのLINK端子に接続します。
※D.C.UnitにはLINK端子が３箇所ありますが、どこに接続しても構いません。

6）付属のメーターハーネスを使用し、Defi-Link Control Unit IIのMETER OUTPUT 1端子とD.C.UnitのLINK端子(Defi-Link Control Unitの場合はMETER端子とD.C.UnitのLINK端子)を接続します。
※D.C.UnitにはLINK端子が３箇所ありますが、どこに接続しても構いません。

7）付属のエンジン回転数信号ハーネス【青線２m：図３】をエンジンコンピューター（ECU)のエンジン回転数信号線に付属のエレクトロタップを使用し接続します。(既にDefi-Link Control Unit II 又はDefi-Link Control Unitに青線がつながっている場合は接続不要です。青線の配線はそのままにして９へ進んでください。)

8）７で接続したエンジン回転数信号ハーネスをDefi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)のTACHO端子に接続します。
※Defi-LinkシステムとDefi-Link VSD Xをリンクして使用する場合、エンジン回転数信号ハーネス(青線)は必ずDefi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)のTACHO端子に接続します。青線をD.C.Unitのみに接続しても、Defi-Link VSD Xにエンジン回転数は表示されません。

9）付属の車速・エンジン回転数信号ハーネスの緑線(車速信号）のみをエンジンコンピューター（ECU)の車速信号線に付属のエレクトロタップを使用し接続します。
※車速・エンジン回転数信号ハーネスの青線は接続する必要はありません。絶縁処理後、運転の妨げにならないようにまとめてください【図２】。

１０）９で接続した車速・エンジン回転数信号ハーネスをD.C.UnitのSPEED＆TACHO端子に接続します。

ステップ２　正しく配線されているか確認する

単体 ◀◀◀ 共通 ▶▶▶ リンク接続

1）Defi-Link VSD Xの表示器付属のハーネスをD.C.UnitのDISPLAY UNIT端子に接続します。
2）再度配線が正しくされているか確認します。
3）車両の電源を入れ、表示が出るかどうか確認します。
4）３で表示が出た場合はステップ３へ、表示されない場合はステップ１へ戻り再度配線をご確認ください。

ステップ３　表示器・DIMセンサー・D.C.Unitの取り付け

単体 ◀◀◀ 共通 ▶▶▶ リンク接続

⚠ 警告

●誤って取り付けた場合、本製品の脱落や車両破損の原因・運転の妨げとなり大変危険ですので、以下のことを守ってください。
　・製品は運転の妨げにならない位置へお取り付けください。
　・運転中に各ユニットがはずれないよう にネジと両面テープを使って確実に取り付けてください。
●表示器を取り付ける際は、取り付け位置を必ずお客様に確認していただき、運転の妨げにならない位置へお取り付けください。

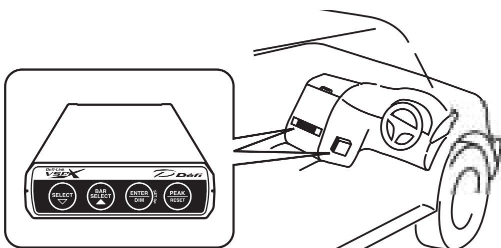
⚠ 注意

●ターゲットスクリーンに巻いてあるゴムは外さないでください。ターゲットスクリーンの端面が鋭利で危険です。ゴムが外れた場合は付け直してください。

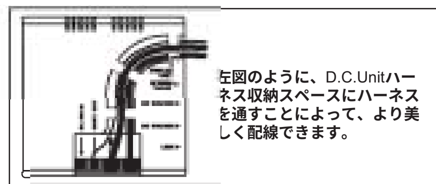
確　認

●真夏の炎天下に車を放置する場合は、表示器に白い布等をかけていただくと、表示器の劣化防止になります。
●両面テープで貼り付けるときは、貼り付ける場所のゴミ、油分、水分をきれいに拭き取ってからご使用ください。
●D.C.Unit及びDefi-Link Control Unit II(又はDefi-Link Control Unit)は直射日光の当たる位置に設置しないでください。
●ターゲットスクリーンには触らないでください。ターゲットスクリーンが汚れた場合は、乾いた柔らかい布などで傷つけないように拭いてください。大きな異物が付着した場合は、異物をテープなどで取り除いてから拭いてください。

①D.C.Unitの取り付け

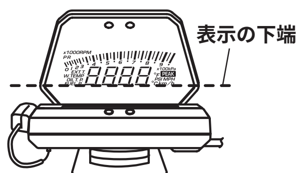


付属の両面テープ3枚を使い、D.C.Unitをセンターコンソールなどの任意の位置に貼り付けます。なるべく平らな場所に貼り付けてください。その際、貼り付ける場所のゴミ、油分、水分をきれいに拭き取ってからご使用ください。



左図のように、D.C.Unitハーネス収納スペースにハーネスを通すことによって、より美しく配線できます。

②表示器の取付角度

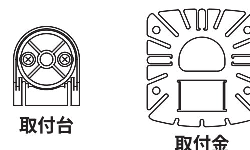


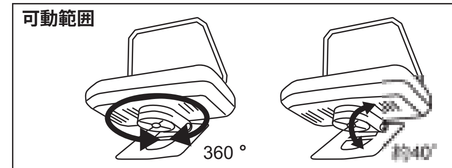
ドライビングポジションからターゲットスクリーンを見たときに、ターゲットスクリーンの両脇にある角と角を結んだ線に表示の下端が一致するように、取付台の角度を調整して表示器を設置してください。この角度が、表示の反射が最も明るく見える角度です。
※必ず実際に運転する方のドライビングポジションを確認し、そのポジションに合わせて角度を決めてください。

単体 ◀◀◀ 共通 ▶▶▶ リンク接続

③取付台・取付金について

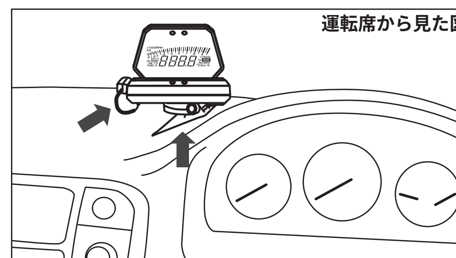
表示器を設置する際は、取付台と取付金の2個の部品を組み合わせて角度や向きを調整します。
　取付台・・・表示器の下に付いている部品です。
　取付金・・・付属品セットの袋の中に入っている金具です。
取付台は360 回転し、取付金は約40 動きます。取付位置やインパネの形状に合わせて取付台と取付金を固定します。



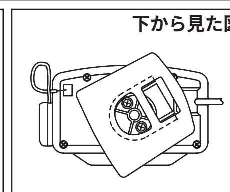


④表示器取付台の設置例

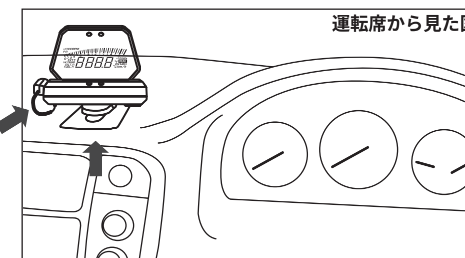
【A】取付面が奥(フロントガラス)の方に向かって下がっている＋左側に向かって下がっている場合



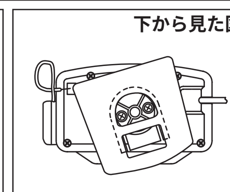




【B】取付面が手前(運転席)の方に向かって下がっている場合

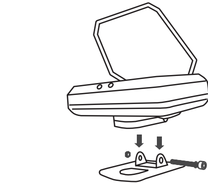




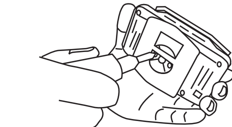


⑤表示器・DIMセンサーの取り付け

1）付属のボルト・ナット・ワッシャーを使って、取付金を取付台に仮締めします【図4】。ボルトを締める際は六角レンチを使用してください。その後、取付台が回る程度に取付台のネジを緩めます【図5】。


【図4】取付金をボルトで取り付ける

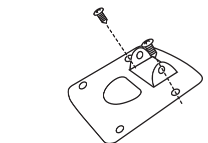
2）表示器を取り付ける位置を決めます。イグニッションをオンにし、表示をターゲットスクリーンに映しながら表示が最もよく見える位置・角度を探します。このとき、取付金の角度をかえたり、取付台を回しながら取付位置を決めます。取り付け位置が決まったら、その場所に粘着テープ等で印を付け、イグニッションをオフにします。(③取付台・取付金について、④表示器取付台の設置例参照)


【図5】取付台のネジを緩める・締める

3）取付台を本締めします【図5】。

4）表示器を取付台から一旦取り外し、取付金の裏面に付属の両面テープを貼り付け、取り付けたい場所の形状にあわせて取付金を曲げて貼り付けます。その後、脱落しないように付属のタッピンネジで取付金を固定します【図6】。

※両面テープで貼り付けるときは、貼り付ける場所のゴミ、油分、水分をきれいに拭き取ってからご使用ください。


【図6】タッピンネジで取付金を固定する

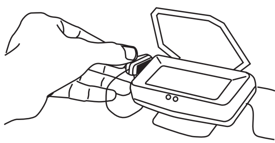
5）DIMセンサーを表示器の裏側にあるDIMセンサー接続用コネクターに差し込みます。

6）取付金に表示器をはめ込み、六角レンチで本締めします。

7）DIMセンサーの裏側に両面テープを貼り、ハーネスの**出ていない**方を進行方向に向けて表示器の側面に固定します【図7-1】【図7-2】。

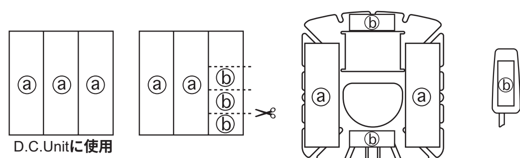
※センサーの取付方向を間違えないようにご注意ください。

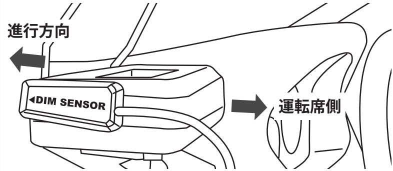
※センサーの水平前方方向がワイパーなどでさえぎられない位置に固定してください。


【図7-1】DIMセンサーを固定する

両面テープの使い方

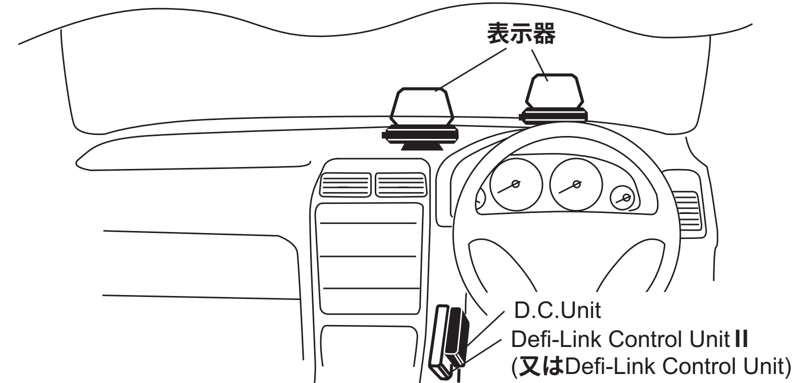
付属の両面テープ ⓐ の3枚をD.C.Unitに、2枚は下図のように取付金に、ⓑ は2枚を取付金に、1枚をDIMセンサーに貼り付け使用します。





【図7-2】DIMセンサーの取付方向

⑥取付完成例



製品の配線、固定が完了しましたら、車両ごとの設定・各機能の設定を行います。ご使用方法をお読みいただき、初期設定を完了してください。また、パッケージにクイック解説表があります。切り取ってご覧になると便利です。